

「ふるさと景観遺産（B-1 景観）」の認定に係る シリーズ化・ストーリー化の検討

ふるさと景観遺産（B-1 景観）の認定に係るシリーズ化・ストーリー化を検討するに当たって、市町からの推薦を含めた景観によりとりまとめを行った。

●シリーズ化

（1）建造物

- ①ノコギリ屋根
- ②レトロな商店街
- ③学び舎
- ④缶詰の茅葺き屋根

（2）まちなみ

- ①まちなみを演出する通りの風景
- ②河川・小川風景
- ③参道まちなみ景観

（3）自然系

- ①並木道
- ②星空
- ③棚田

●ストーリー

- （1）純血種が奇跡的に残った“和牛の聖地”廃村「熱田集落」
- （2）奇跡的に残った乃井野武家屋敷群
- （3）新野水車の里

ノコギリ屋根【シリーズ】

織物工場は、点検時に自然光を取り入れるため、ノコギリの刃のような屋根形状が多く、織物で栄えた地域の特徴的景観である。産業の衰退とともに展示・販売施設に転用されたものもあるが、今も尚まちなかに残る歴史的資産として、地域の歴史を物語る。



- ① 赤レンガを使用した工場群。現在も操業中。
- ② 倉庫や駐車場に転用されている。
- ③ 焼板を巡らせた外壁や木の格子窓も特徴的。
- ④ 軍手・手袋製造工場の敷地内にある。現在は、倉庫として使用。

レトロな商店街【シリーズ】

どことなく昔の景観が残っている、まるで古き良き時代にタイムスリップしたような懐かしさでいっぱい、そんな昔のまま残っている商店街。地域の生活に欠かせない「レトロな商店街」は、暮らしを支えるためにこれからも息づく。



- ① 伝統的な町家も点在し、昔懐かしい空間が残っている。
- ② 木造アーケード建築。播州織の女工さんの共同宿舎として大正7年に完成。
- ③ 北但大震災からの復興のためにつくられた。
- ④ 町家や空き家を利用したショップが集まる、洲本城下町の懐かしいまちなみ。

学び舎【シリーズ】

木造・三角屋根の校舎、古びたコンクリート造の校舎は、趣があり懐かしさを感じる。今も尚現役のものもあれば、その役目を終えてひっそりと佇むものもある。地域の教育の場としてはもちろん、活動拠点として地域の歴史と記憶が詰まっている。



- ① 市内に残る唯一の木造校舎
- ② 閉校から 30 年以上が経過。バイオディーゼル燃料の製造工場として活用されていた。
- ③ 閉校から 30 年以上が経過。現在は地域交流施設やカフェとして利用されている。

缶詰の茅葺き屋根【シリーズ】

人里を離れ、山中を奥に奥に進んでいくと突然現れる茅葺き民家の集落。老朽化からか茅葺き屋根は、トタンで覆われ、まるで缶詰のようである。多自然地域の山奥にひっそりと佇む集落である。



- ① 西播磨テクノポリスへと続く道ができなければ、山奥の集落だった。
- ② 秋になると朝霧が集落近くまで立ち上り、霧に包まれた山里は幻想的である。
- ③ 岡山との県境で、グラミンカ（グランピングの古民家版）として改修。

まちなみを演出する通りの風景【シリーズ】

通りの脇にある水路や連なる石積塀、伝統的な意匠の町家、通りの先に広がる海は、その地域のまちなみを演出している。歴史、文化、地形が育んだ地域特有の景観であり、まちの顔である。



- ① 周辺は新興住宅地に覆われているが、この界隈は、往時の名塩を偲ばせている。
- ② 「伊和都比売神社」から瀬戸内海へつながる坂道。個性豊かな店が並んでいる。
- ③ 江戸後期から明治前期にかけて進められた開墾の際に出た大量の石を塀に利用。

河川・小川風景【シリーズ】

水の流れや並木などの季節の移り変わりとともに多彩な表情をみせている。生活の利便性を高めるためにつくられた道、橋、鉄道、電車などの都市基盤と自然が調和した景観は人々の営みの中で育まれてきた。



- ① コンクリート製斜張橋としては国内最大。春に桜と菜の花がまちを鮮やかに彩る。
- ② 大きな岩が多くあるのが特徴的。鉄橋、道路、川の流れが合わさるダイナミックな景観。
- ③ 河川敷に散策コースがあり、四季折々の草木を楽しめ、春は見事な桜並木が見られる。
- ④ 近代化する当時の面影を感じることができる桜並木の写真スポット。

参道まちなみ景観【シリーズ】

参道には石畳が敷かれ、脇には松、鳥居、灯笼のほか、地域の営みや生業が息づくまちなみが形成されてる。お参りする人々を出迎え、交流で賑わう風景は、厳かな雰囲気と調和した景観となっている。



① 廣田神社の参道（西宮市）



② 三輪神社の参道（三田市）



③ 王地山稻荷参道（丹波篠山市）



④ 高山寺の参道（丹波市）

- ① 荒廃していた参道松並木が甦り、往時の姿を取り戻した約 500m の石畳と松並木。
- ② 門前町として栄えた界限。落ち着いた風情を醸し出している。
- ③ 赤い鳥居がトンネルのように続く長い石段の参道。
- ④ 灯笼の灯で、紅葉した参道が幽玄とした雰囲気になる。

並木道【シリーズ】

並木の樹種は地域によって様々で、そのまちのシンボルにもなっている。また、花や葉の色づきは季節毎の何気ない楽しみとなっている。まちに潤いと彩り、地域の人々の心に安らぎを与えている。



- ① 北摂三田ニュータウンでは、近代的な建造物と自然の調和が楽しめる。
- ② 福崎町の文化ゾーンである辻川界隈の桜はトンネルを形成している。
- ③ 両脇にそびえるモミジバフウの光景は、秋になると葉が真っ赤に染まる異国の景色。
- ④ 一本道に桜の木が並ぶ。春には満開の桜、夏には木漏れ日が落ちる情景が楽しめる。
- ⑤ 陣屋の跡地に整備された公園は、桜の名所として地域住民の憩いと安らぎの場である。

星空【シリーズ】

近年、大気汚染や過剰な屋外照明などで、誰もが見ることができはずの星空が見られない地域がある。自然のまま見ることができ美しい星空は、これからも地域で守り続ける景観である。



- ① 阪神地域最高峰の山から見る星空。条件が整えば雲海を見ることができる。
- ② 西日本有数の約 90 ヘクタールに及ぶススキの高原から見る星空。
- ③ 標高 930 メートルで、遮るものがなく、降り注ぐような満点の星空が見られる。
- ④ おおなでさん 大撫山山頂にある西はりま天文台。他の照明に妨げられず美しい星空が広がる。
- ⑤ 山に登る必要がなく、行きやすい。香住の町が一望でき、夜景を見ることができる。

棚田【シリーズ】

鏡のように輝く水面、稲で鮮やかな緑、稲穂で黄金色に輝く棚田は、四季折々の美しい農山村風景を代表する景観である。また、地域住民の共同活動により守れてきた大事な財産となっている。



- ① 「ふるさと兵庫百山」に選ばれた白岩山の山すそをはい上がる道が織り成す農村風景。
- ② 鉢伏山中腹の約 130 枚の棚田。棚田の上に県指定文化財の「別宮の大カツラ」がある。
- ③ 畦が独特なカーブを幾重にも描く。休耕田がほとんどなく「日本の棚田百選」に選定。
- ④ ため池、播磨灘が一体となった棚田。「淡路島百景」に選ばれている。

純血種が奇跡的に残った“和牛の聖地”廃村「熱田集落」(香美町)【ストーリー】

豪雪地帯である香美町小代区の秘境に佇む熱田集落跡。但馬牛（うし）純血種が残った“和牛の聖地”として語り継がれ、2010年までの約30年にわたり、都市部からの自然体験教室を受け入れた、農泊のさきがけとなる民家跡が残る。



熱田分校



熱田の古民家



但馬牛を引き連れ集団移転を行う様子

1968年2月14日の大雪の日、買い物からの帰宅途中に起きた雪崩事故を契機に、全住民が同町中心部に建設された越冬住宅に集団移住した。

秘境「熱田集落」には、現在、昭和レトロな熱田分校、農泊のさきがけ「自然体験教室を受け入れた熱田の古民家」、純血種が残った“和牛の聖地”「あつた蔓」が生まれた里が佇んでいる。

奇跡的に残った乃井野武家屋敷群（佐用町）【ストーリー】

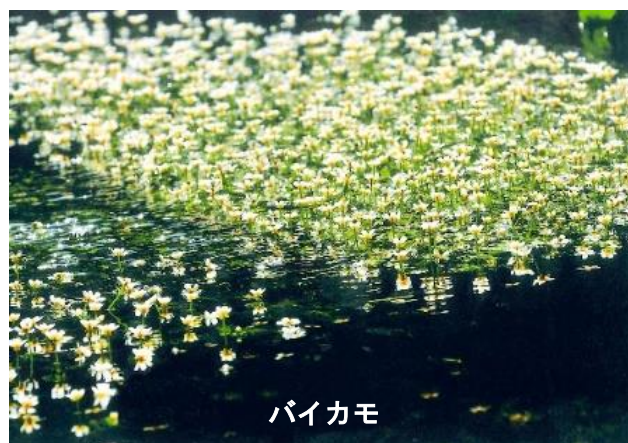
元禄 10 年（1697）、津山藩森家の分家である森長俊が三日月に移住し、1 万 5 千石の三日月藩主となった。森家の家臣であった小林家・竹内家・田村家・船引家の住居は、明治以降の経済発展を逃れた田園風景の中に、連続する白壁の土塀とともに残っている。



三日月町乃井野地区は、明治までの 174 年間、政治・文化の中心として栄えた。4 軒の武家屋敷群は大変貴重なものであるとして、武家屋敷マルシェの開催など地域活性化のため保全と活用に取り組んでいる。

新野水車の里（神河町）【ストーリー】

新野の水車は、元禄6（1693）年以前から存在する、揚水用として水を田へ汲み上げる水車である。利用の減少に伴い3基にまで減っていたが、今では11基の水車が活躍し、昔ながらの田園風景が復活している。



一番多いときには1.5キロメートルの間に18基の水車が稼働していたが、利用の減少に伴い3基にまで減っていた。そこで、地域住民が集まり、村の活性化を図るために水車を復活させることを決め、8基の水車を復活させることができた。今では11基の水車が活躍し、昔ながらの田園風景が復活している。近くには、バイカモが咲く水路もあり、地域住民により大切に守られている。